

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
「系統的レビューに基づく「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に寄与する  
口腔機能評価法と歯科保健指導法の検証」（H29-医療-一般-001）  
平成 29 年度分担研究報告書

## 歯科疾患実態調査の協力率向上に向けた平成28年調査対象地区への質問紙調査

研究分担者 安藤雄一（国立保健医療科学院）  
研究協力者 柳澤智仁（渋谷区健康推進部）  
研究協力者 白井淳子（東京都南多摩保健所）  
研究協力者 高橋明子（仙台市健康福祉局保健衛生部）  
研究協力者 原田志織（東京都西多摩保健所）  
研究協力者 長 優子（江戸川区健康部健康サービス課）  
研究協力者 芦田慶子（豊島区池袋保健所）  
研究協力者 岸井奈緒美（東京都町田市保健所）  
研究協力者 高澤みどり（千葉県市原市保健センター）  
研究協力者 中山竜司（栃木県保健福祉部健康増進課）

### 研究要旨

平成 28 年歯科疾患実態調査（以下、「H28 歯調」）の対象地区に対して、同調査の実施内容の詳細を評価することを主目的として、「H28 歯調」実施から 1 年余を経過した 2018 年 1～2 月に郵送による質問紙調査を行った。回答は 92%の地区から回答が得られた。本報告では記述統計的分析結果について報告した。その結果、「H28 歯調」の母体調査である平成 28 年国民健康・栄養調査（以下、「H28 栄調」）との連携については、現場において一定レベルの連携がとられている状況が窺える結果が得られた。今後の協力率向上の見通しに関する質問では、口腔診査の協力率が向上するという見通しの回答は少なかったが、質問紙の協力率が向上するという見通しの回答が多かった。今後の改善等に関する自由記述の回答から、歯科疾患実態調査では PDCA が機能していない状況が窺えた。今後、本報告をもとに、歯科疾患実態調査の実施直後に調査実施状況の評価するアンケート調査をルーチンで行うようにする方法が必要と思われた。

## A. 研究目的

### （1）研究の背景

歯科疾患実態調査は半世紀以上の歴史を持ち<sup>1-8)</sup>、わが国における歯科疾患のレベルを評価するうえで非常に重要調査である。直近で行われた平成 28 年調査では、近年、調査協力率の低下傾向が認められることから、従来行われてきた診査会場での口腔診査に加えて診査会場に来場しない対象者に対する質問紙調査が行われた。これらの協力状況の概

要については厚労省 Web<sup>9)</sup>より報告されているが、今後の同調査のあり方を検討するには、平成 28 年歯科疾患実態調査の調査対象地区がどのように調査実施に臨んだかについて詳細に把握する必要がある。また今後の協力率向上がどの程度まで見込めるかについて把握する必要もある。

以上を踏まえ、平成 28 年歯科疾患実態調査（以下「H28 歯調」）の調査対象地区の担当者等に対して質問紙調査を実施し、各調査地区における同調査実施のプロセスおよび協力度向上の目安について質問紙調査を行った。本報告では調査の概要と記述統計結果について述べる。

## B. 研究方法

本調査は郵送による質問紙調査であり、調査対象、調査内容、実施手順、分析方法は以下の通りである。

### 1. 調査対象

調査対象は、「H28 歯調」の対象地区における同調査の担当者とした。複数で担当した場合は、主たる実務担当者とした。また、調査担当者が異動等で不在の場合は現在の歯科保健担当者とした。

### 2. 調査内容

資料 1 に示した質問紙票を用いた。本質問票は 23 の質問から成り、以下の 3 種類の質問項目から成る。

(a) 回答者のプロフィール (Q1 ~ Q3)

「H28 歯調」を担当したか否か、職種など

(b) 「H28 歯調」の実施に関する内容 (Q4 ~ Q18)

平成 28 年国民健康・栄養調査（以下「H28 栄調」）の担当状況、連携状況、事前準備、調査日時、質問紙の事前配布、質問紙調査実施に対する事前認知、口腔診査、「H28 栄調」の調査会場と「H28 歯調」の調査会場との関係など

(c) 今後に向けての意見・見通し (Q19 ~ Q22)

平成 28 年歯科疾患実態調査必携に対する意見、今後の協力率向上に対する見通し（資料 2）、全体的な意見など

なお、(c)に関する質問のうち、今後の協力率の見通しについては、本報告書における安藤らによる分担報告「平成 28 年歯科疾患実態調査における協力率の検討」<sup>10)</sup>にて用いたデータを Microsoft Access に読み込んで作成した当該地区の協力率等を記した文書（資料 2）を対象者に送付し、これを見たうえでの回答を求めた。

### 3. 実施手順

本調査は、郵送による質問紙調査として実施した。

調査に先立ち、「H28 歯調」の主管課である厚労省歯科保健課より、都道府県・保健所設置市・特別区の歯科保健担当者に、本調査への協力依頼を求めるメールが送付された。

調査票の郵送・回収・データ入力には業者に業務委託し、受託業者から下記文書が調査対象地区宛てに郵送された。

- (a) 調査依頼文書
- (b) 歯科保健課長名の協力依頼文書
- (c) 質問紙票（資料 1）
- (d) 参考資料①：当該地区と国全体の回収率（協力率）（資料 2）
- (e) 参考資料②：平成 28 年歯科疾患実態調査必携<sup>11)</sup>
- (f) 返信用封筒

調査は 2018 年 1 月上旬から 2 月上旬にかけて行われた。

督促回数は 1 回で、1 月末に全対象地区に調査協力依頼と督促を兼ねた文面のハガキを郵送した。

調査票の回収は受託業者が行った。

#### 4. 分析方法

本報告では記述統計的分析を行った。

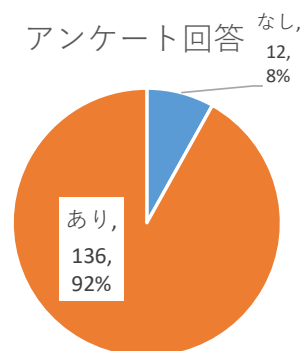
自由記述の質問については、本調査では得られた結果を次回以降の調査に活かすことに主眼を置いたことから、回答はなるべく記述内容をそのまま記載し、個人が特定される情報などに限って手を加えることにした。

#### 5. 回収状況

調査票を送付した 148 調査地区のうち、136 地区より回答が得られ、回収率は 92%であった。

#### 6. 対象者に対する結果の事後報告

質問票の Q23（資料 1）にて本調査結果通知の希望を募り、希望者 130 名（回答者の 95.6%）に記述統計結果（本報告とほぼ同内容）を送付した。



（倫理面への配慮）

本研究は国立保健医療科学院の倫理審査を受け、承認された（NIPH-IBRA#12173）。

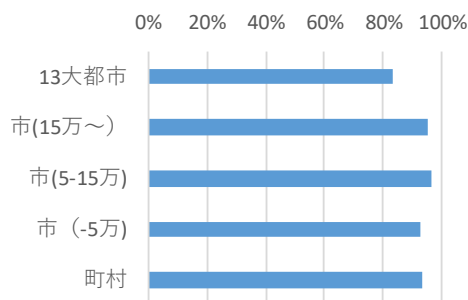
### C. 研究結果

#### 1. 回答地区／者のプロフィール（Q1～Q3）

Q1. 「H28歯調」の対象地区に関する情報について、お尋ねします（都道府県名、保健所名、地区番号、地区名）。

都道府県別にみた回収率は大半が 100%で最低でも 50%と、顕著な差はなかった。自治体規模別にみると、「13 大都市」がやや低率であった。

回答状況（自治体規模別）

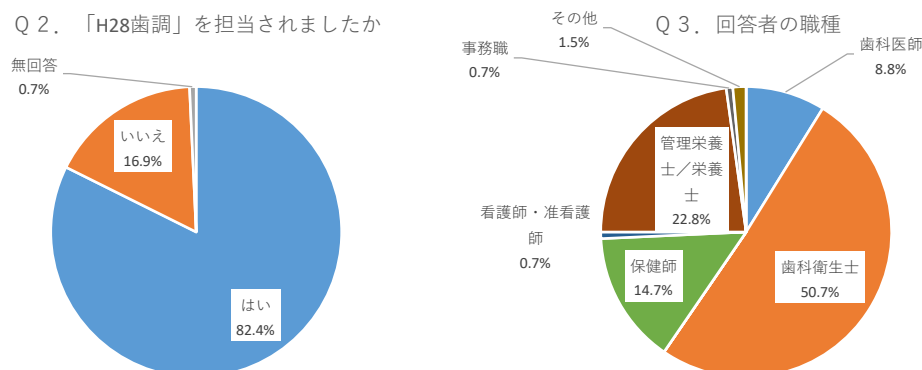


## Q2. 「H28歯調」を担当されましたか

回答者の8割強が「H28歯調」の担当者であった。

## Q3. 回答者の職種について

最も多かったのが歯科衛生士で回答者の半数(51%)を占めた。次いで管理栄養士(23%)、保健師(15%)、歯科医師(9%)の順で、このほかの職種は僅かであった。



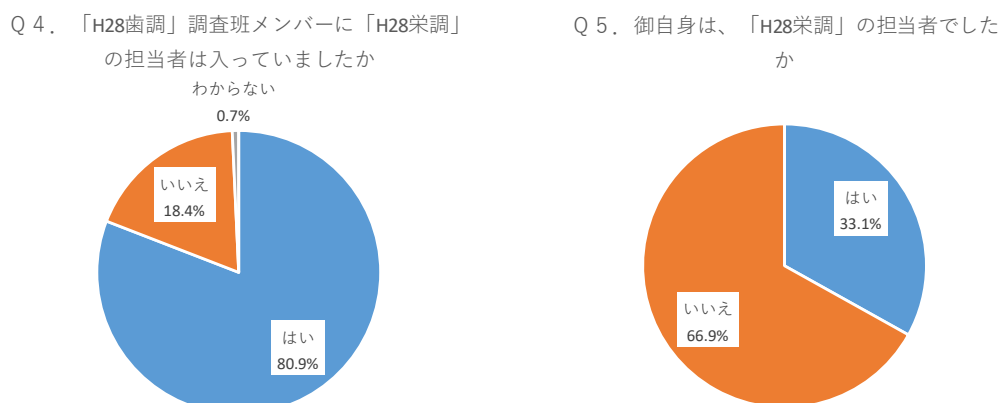
## 2. 「H28歯調」の実施に関する内容 (Q4~Q18)

### Q4. 「H28歯調」調査班メンバーに地区の平成28年国民健康・栄養調査(以下、「H28栄調」)の担当者は入っていましたか

調査地区は約8割で「H28栄調」の担当者が「H28歯調」の調査班メンバーだった。

### Q5. 御自身は、「H28栄調」の担当者でしたか

自身が「H28栄調」の担当者だった回答者は全体の約3分の1であった。



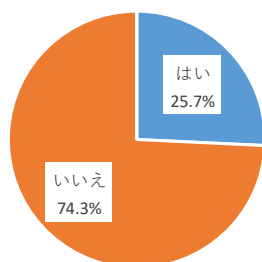
**Q6. 国の説明会(2016.7.11開催)には参加されましたか**

約 4 分の 1 の対象地区が国の説明会に参加していた。

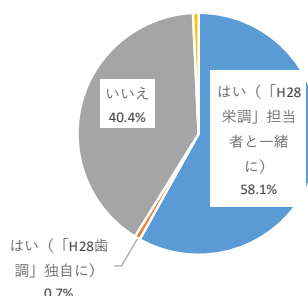
**Q7. 地区内の関係者(自治会長、マンション管理者等)に協力依頼等に出向されましたか**

6 割弱が地区内の関係者が「H28 栄調」の担当者と一緒に調査協力依頼に出向いていた。

Q 6. 国の説明会に参加されましたか



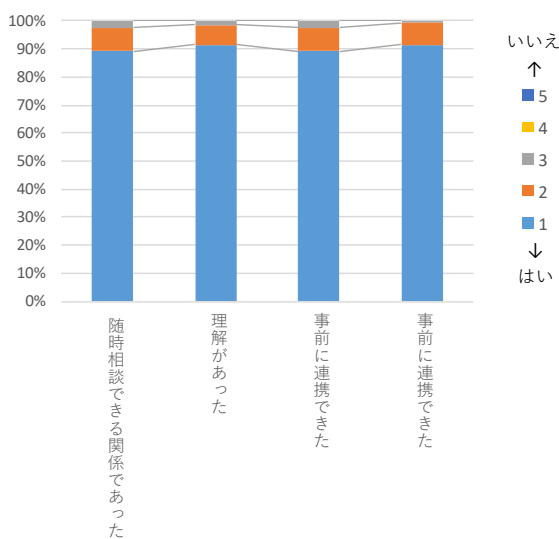
Q 7. 地区内の関係者(自治会長、マンション管理者等)に協力依頼等に出向されましたか



**Q8. 地区の「H28栄調」担当者との関係性について伺います。(a)~(d)の4つの観点について、1~5のうち当てはまるものに○をつけてください**

約 9 割の地区において 4 つの観点(随時相談できる関係だったか/理解があったか/事前に連携できたか/実際に協力が得られたか) からみた関係性は、これらを肯定する度合いが最も高いランクの 1 を示し、残る 1 割の地区もほとんどが次のランクの 2 であった。

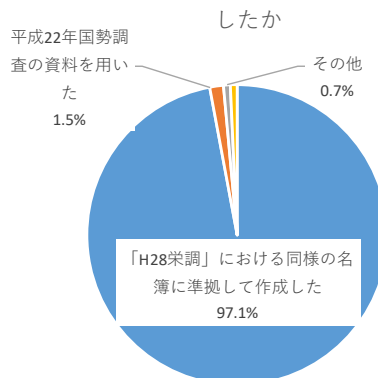
Q 8. 地区の「H28栄調」担当者との関係性



**Q9. 各地区における被調査者数(「必携」における第1号様式「被調査者名簿」に記されている人数)はどのように把握しましたか**

ほとんど(97%)の地区では被調査者数について「H28 栄調」のものを活用していた。

Q 9. 各地区における被調査者数はどのように把握しましたか



Q10. 調査を実施した日時と会場について  
御記入ください。

実施月は11月が72%と最も多く、  
次いで10月(27%)であった。

曜日については、9割以上が火～木  
曜日に実施していた。

実施時間帯については、9割以上が  
午後実施で、ほとんどが3時間以上時  
間実施していた。

なお、8地区において別の日に2回目の調査を実施し  
ていた。

●曜日

曜日	N	%
月曜日	12	8.82
火曜日	39	28.68
水曜日	33	24.26
木曜日	39	28.68
金曜日	3	2.21
土曜日	1	0.74
日曜日	8	5.88
無回答	1	0.74
Total	136	100

●開始時刻

時刻	N	%
9:00	4	2.9%
9:30	4	2.9%
10:00	3	2.2%
10:30	1	0.7%
12:30	1	0.7%
13:00	18	13.2%
13:30	4	2.9%
14:00	15	11.0%
14:30	3	2.2%
15:00	41	30.1%
15:30	3	2.2%
16:00	25	18.4%
16:30	3	2.2%
17:00	4	2.9%
17:15	1	0.7%
17:30	1	0.7%
18:00	3	2.2%
無回答	2	1.5%
Total	136	100.0%

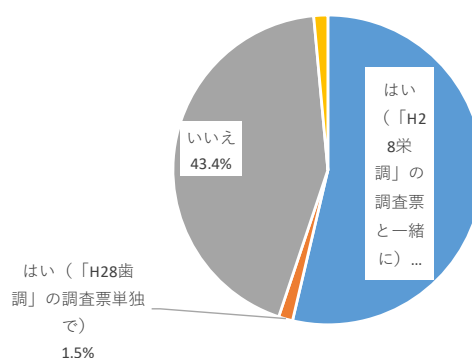
●終了時刻

時刻	N	%
11:00	1	0.7%
12:00	3	2.2%
13:00	2	1.5%
14:00	1	0.7%
14:30	2	1.5%
15:00	1	0.7%
16:00	1	0.7%
17:00	2	1.5%
17:30	1	0.7%
18:00	3	2.2%
19:00	29	21.3%
19:30	13	9.6%
20:00	66	48.5%
20:30	6	4.4%
21:00	3	2.2%
無回答	2	1.5%
Total	136	100.0%

Q11. 「H28歯調」質問紙(「必携」の第2号様式)を事前に各戸配布されましたか

4割強(43%)の地区で  
は質問紙が事前配布されて  
いなかった。残る半数強の  
うち、54%の調査地区では  
質問紙が「H28栄調」の調  
査票と一緒に各戸に事前配  
布されていた。「H28歯調」  
独自に事前配布した地区は  
わずか(1.5%)であった。

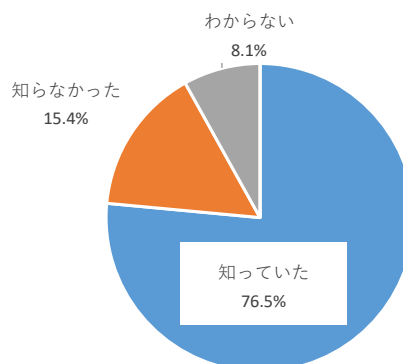
Q11. 「H28歯調」質問紙を事前に各戸配布されましたか



Q12. 「H28歯調」の実施当時、「質問紙回答のみ」でも対象者として扱われることは御存じでしたか

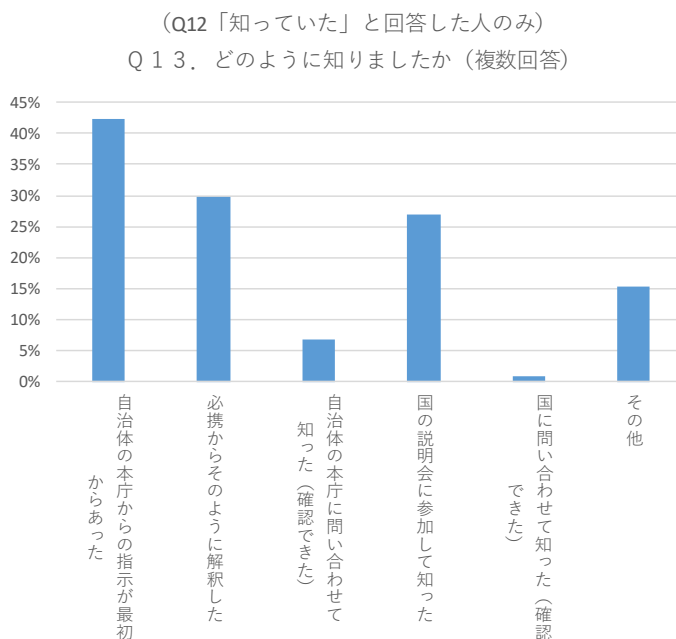
約4分の3(77%)の地区で  
は「質問紙回答のみ」でも対象  
者として扱われることを「知っ  
ていた」と回答し、「知らなかつ  
た」という回答は全地区の15%  
であった。「知らなかつた」とい  
う回答は8%であった。

Q12. 「H28歯調」の実施当時、「質問紙回答のみ」でも対象者として扱われることは御存じでしたか



Q13. どのように知りましたか。下記のうち、当てはまるもの全てに○をつけてください

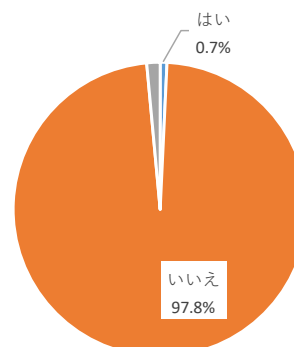
最も多かった回答は「自治体の本庁からの指示が最初からあった」(4割強)で、次いで「必携からそのように解釈した」(約3割)、「国の説明会に参加して知った」(3割弱)の順で、他の回答肢の割合は低かった。



Q14. 調査会場以外(自宅など)に出向いて口腔診査を行いましたか

調査会場以外に出向いて口腔診査を行った地区は1%にも満たなかった。

Q14. 調査会場以外(自宅など)に出向いて口腔診査を行いましたか



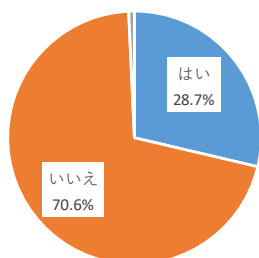
Q15. 調査会場における「H28歯調」と「H28栄調」の関係についてお尋ねします。受診者の流れは、「H28栄調」の診査が終わらないと「H28歯調」の診査に行くことができない、というものでしたか

約7割の地区で「H28栄調」の診査が終わらなくても「H28歯調」の診査に行けるように調整されていた。

Q16. [前問Q15で「はい」と回答した地区のみ] 「H28栄調」の会場では、受診者に対して調査が終わったら、「H28歯調」の会場に行くように伝えていましたか(○印は1つ)

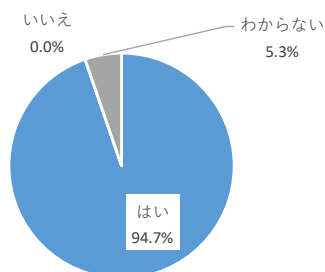
大半(95%)の地区では「H28栄調」の会場において受診者に対し調査が終わったら、「H28歯調」の会場に行くように伝えていた。

Q 15. 受診者の流れは、「H28栄調」の診査が終わらないと「H28歯調」の診査に行くことができない、というものでしたか



(Q15で「はい」と回答した人のみ)

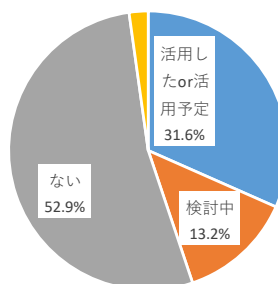
Q 16. 「H28栄調」の会場では、受診者に対して調査が終わったら、「H28歯調」の会場に行くように伝えていましたか)



Q17. 「H28歯調」で得られたデータは自地域(都道府県を含む)の調査データとして活用されましたか

活用されていない地区が最多で過半数(53%)を占め、次いで活用しないし活用予定(32%)、検討中(13%)の順であった。

Q 17. 「H28歯調」で得られたデータは自地域(都道府県を含む)の調査データとして活用されましたか



Q18. 「H28歯調」の実施に関して、追加の記述があれば御記入ください。御意見等は後の質問にて別途伺いますので、ここでは事実的な事柄にとどめてください(自由記述)

表1は上記質問に対する自由記述の回答を内容別に整理して示したものである。会場での対応については臨機応変に対応したという回答が、また協力状況については調査地区の特性から協力率が低かったという回答が目についた。

### 3. 今後に向けての意見・見通しなど

Q19. 「必携」について、どのようにお考えですか？。

7割強の地区が「今のままでよい」と回答したが、約4分の1の地区が「改善点がある」と回答していた。

Q 19. 「必携」について、どのようにお考えですか？。

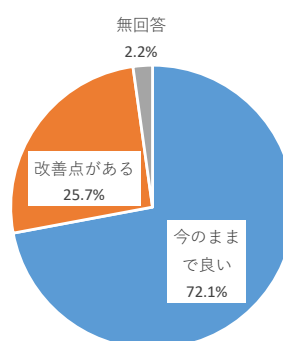




表1. 自由記述質問Q18(「H28歯調」の実施に関する追加記述)の回答一覧

Q18. 「H28歯調」の実施に関して、追加の記述があれば御記入ください。

▽事前準備

- ・調査実施日の1週間前に、栄調と歯調についての地区説明会を実施した。
- ・質問紙の事前配布について、調査員への依頼が遅くなり、配布は一部対象者（例えば、郵送で依頼した人）に限定された
- ・質問紙回答のみも可能ではあるが、栄養の方で事前に食事の記録の記入も必要で配布物が多いため、歯科用紙を説明なく事前に配布するのは難しい
- ・本市は健診を全て医療機関委託としているため、健診器具はディスプレイのものを購入し、滅菌（委託）し実施したが、ディスプレイ WHO プローブの取り扱いがなく、苦勞した。
- ・質問紙は「被調査者本人が記入する事項」のみに加工した用紙を事前に各戸配布し、記入された物を回収した。(Q11 回答の補足)

▽会場での対応など

- ・歯調と栄調を同じ会場で実施し、来所者には先に歯調を受けるよう促した。
- ・(Q15 の追可回答) 栄養調査に時間がかかっている場合は、随時歯科調査に回すなど臨機応変に対応した。
- ・健診会場を保健福祉センター内とし、健診器材・照明・暖房設備等の事前準備の負担を減らし、調査の流れをスムーズにすることができた。
- ・被調査者本人が記入する事項については、全て調査員が聞き取りをし記入した。

▽協力状況

- ・今回栄調協力者の協力率は 100 %であったが、対象者の調査拒否・不能者が多かった。
- ・対象となった集合住宅は、単身者が多く 又、リゾートマンションの目的で利用する住民も多く存在するため、調査期間中の滞在は少ない事が予想され、回収率（協力率）は期待できなかった。
- ・調査地区の大規模集合住宅から調査協力が得られず、協力率が低かった。
- ・栄養調査と歯科調査は同一会場、同部屋で実施。調査日が雨だったので、多少調査人数の減少に影響した。
- ・調査できた人数が少なく、調査データを活用出来なかった。

▽関係者間の連携など

- ・「栄調」担当・本庁との協力・連携はできていた。

▽事後対応

- ・調査実施日後に 2 日間で、栄調と歯調の調査票回収に訪問した。

Q20. 改善点について具体的に御記入ください。或いは、同封された「必携」の該当箇所に赤字で御記入いただき、付箋をつけて御返送ください。

表2は「必携」の改善点に質問に対して自由記述欄に記入された回答を内容別に整理して示したものである。自由記述質問 Q20 の回答を、内容別に整理して示したものである。比較的頻度の高かった意見は、国民健康・栄養調査と制度面での連携、Q&A 集の追記、歯科専門職でない担当者に対する専門用語の解説等の配慮を求める意見、「交付」という言葉や口腔診査票が分かりづらい・書きづらいという意見、歯科医師による口腔診査に対する配慮などであった。

本質問については質問紙の自由記述欄への記入だけでなく、質問紙に同封された「必携」に直接記入する形での回答も多く、内容的には表2に示された質問紙の記入欄に対する回答と類似していたが、指摘内容はより具体的であった。

Q21. 貴地区の協力率は、同封した資料「当該地区と国全体の回収率(協力率)」(資料2)に記したとおりでした。仮に次回の歯調で担当するようになった場合、この数値よりも高い協力率が得られる見通しについてお尋ねします。以下の回答肢から該当するもの1つを選んでください。

①口腔診査受診者に限定した場合は、資料2に示された各地区の協力率よりも高い協力率が得られる見通しが、「あまりない」が約7割と最多で、次いで「ない」が2割強と

否定的な回答が9割以上であった。肯定的回答は「少しある」が5%、「ある」が1%と低率であった。

②質問紙のみ回答者を含めた場合では、現状よりも高い協力率が得られる見通しについて「あまりない」が4割強と最多であったが、次いで「少しある」が4割弱、「ある」が1割強で、肯定的な見通しが半数近くであった。

	① 口腔診査受診者に限定した場合 (○印は1つ)		② 質問紙のみ回答者を含めた場合 (○印は1つ)	
	N	%	N	%
ある	1	0.7%	15	11.0%
少しある	7	5.1%	51	37.5%
あまりない	95	69.9%	58	42.6%
ない	31	22.8%	11	8.1%
無回答	2	1.5%	1	0.7%
Total	136	100.0%	136	100.0%

Q22. 歯科疾患実態調査に関して御意見等がありましたら御記入ください(自由記述)

表3は上記質問に対する自由記述回答を内容別に整理して示したものである。最も多かった意見は国民健康・栄養調査との関係についての意見であり、効率的な運用により現場での負担軽減を求める意見が多かった。準備に関することでは口腔診査に必要な器具類に関する要望が多かった。調査の方法論についても様々な意見が示された。事後対応については、国民健康・栄養調査のように結果を対象者に返すようにすべきとする意見が多かった。協力率については向上が困難であるとする声が多かった。また今回行ったような事後評価アンケートは調査実施直後に行ってほしいとする声もあった。

表2. 自由記述質問Q20(「必携」の改善点)の回答一覧 [その1]

Q20. 改善点について具体的に御記入ください。(或いは、同封された「必携」の該当箇所に赤字で御記入いただき、付箋をつけて御返送ください。)

#### ▽「栄調」との制度面での連携を

- ・国民健康栄養調査の必携を合同にするなど国でも連携をとってほしい
- ・事務効率を図るため、歯科疾患実態調査被調査者名簿(第1号様式)と栄調の名簿を共通の様式に改善してほしい。
- ・栄調は基準日の年齢としているが、歯調は基準日を設けていないため調査日当日の年齢としたことから、調査の際、混乱が生じた。同一の基準日を設けてほしい。
- ・P.11 青または黒のボールペンで…栄調は、えんぴつでの記入であったため、そろえてほしい。
- ・栄調の一部として歯科の調査をするのなら名簿は一元化してほしい。2種名簿を作成する手間がかかる。(栄養・歯科、2種を一元化したものと3種用意した)
- ・P21. 調査者名簿は栄調と同様に1人1行にして欲しい(エクセルに入力しやすい)。交付者・非交付者より口腔診査実施者、調査票のみと分けた方がわかりやすい。
- ・調査票(第2号様式)の記入は、ボールペンでなく鉛筆にしてほしい(栄調と統一)。
- ・事前栄養調査票と同時に対象者が記載するにしないと回収がむずかしく、又、誰の調査票かをまちがえる可能性があった。

#### ▽Q&A集の活用

- ・メールで送付いただいたQ & Aが参考になったので記載できる内容は必携に追記してほしい。
- ・共有、Q&Aなどとして追加連絡があったような詳細な事項についても、統一をはかる必要があるものは必携に掲載されてあるとよい。
- ・以前のFAQに記載されていることが反映されていない(過去に実施したことがない市町村は判断に困ると思う)
- ・Q & Aは必携と一緒にしていた方がよい。
- ・前述 Q13 Q & A内容の追加

#### ▽歯科専門職でない担当者への配慮

- ・(P3)「診査器具材料および薬品の準備」については、歯科担当者がいない場合があるので、写真をつけるなどして、もっと具体的(詳細)に記述してほしい。
- ・歯科専門職でない者が調査担当者にあたるのがほとんどのため、歯科用語等の解説を含めてもらいたい。
- ・歯科衛生士がいないため、内容が難しかった。
- ・記入に用いる符号が一般的に歯科健診などで使用する符号と異なっていたため、一般的な符号が用いてもらえるとよい。
- ・調査票の性別、生年月日が対象者ではなく調査員が記載することになっており(必携P13 3)、会場にこれなかった人は聞きとりがむずかしかった。

表2. 自由記述質問Q20(「必携」の改善点)の回答一覧 [その2]

▽事前準備

- ・調査必携が保健所に届くのが遅かった。調査時期の2～3ヵ月前には保健所に届くようにしてほしい。
- ・P2.8. 調査不参加者分の調査票の提出は不要。口腔診査未実施の場合も、太線ワク内の項目が記載されている場合は、調査実施者に含める。

▽「質問紙のみでもOK」の明記を」

- ・質問紙のみの回答でも可能な場合は、必携にわかりやすく記載いただきたいです。
- ・Q12の内容を明記してほしい。

▽「交付」という文言がわかりづらい」

- ・栄調では、協力の意向がある世帯には、全員書類を配布していただきましたので、歯調の「交付」という言葉が、しっくりしません。
- ・P.23 第3号様式の中で「左のうち交付した枚数」の枠がありますが、交付という言葉に違和感がありました。
- ・被調査者名簿の「調査参加者」「(非) 交付者」が分かりづらいため、名称を統一してほしい
- ・参加、不参加(調査に)の区分が、困難だった。→参加したとみなす者について、もう少しわかりやすく記載してほしい。
- ・名簿の交付者、非交付者の意味がよくわからなかった。
- ・被調査者名簿の被調査者、交付者、非交付者の説明。

▽表記をわかりやすく

- ・13 ページにあるような表記記号及び注意点を分かりやすく一覧表で表記してほしい。(記入者が一目見て分かるように)
- ・P.13 健全歯 O.t の説明の追加 (P.6 に載っていますが再度載せていただけるとわかりやすいです)。P.14 歯石の記号の説明：見逃しやすい部分だったので、改行や※もしくは●のように見やすくしていただけるとうれしいです。
- ・口腔内診査の記号が実調独自のものになっているため、健診当日に歯科医師と診査補助者の互いに確認できる1枚ものシートを作成した。(複数の歯科医師と診査補助者で対応した) 必携に参考資料として口腔内診査の記号確認シートがあればよい。
- ・提出時の調査票のチェック箇所の記載があれば、記入もれが減る。
- ・必携の中で、年齢によって診査区分等に違いがあるので、1項で一目でわかるように、年齢ごとの診査項目の表があるとわかりやすいと思った。

▽調査票の書きづらさ

- ・調査票が小さく(文字等)記入がしにくかった。
- ・調査票の記入欄が小さく書きにくい。
- ・必携 P5 の2.診査基準と P13 以降の口腔診査の記入方法は、記号など重複している所もあり、分かりづらい。

## 表2. 自由記述質問Q20(「必携」の改善点)の回答一覧 [その3]

- ・1つにまとめ診査項目ごとに対象とする年齢や歯列が異なるため、年齢及び歯列別の診査実施項目が一覧(表)であると確認がしやすい。
- ・調査票に年齢の記入欄があるとよいと思う。
- ・調査票類の書き方がわかりにくいので記入例を充実させて欲しい。

### ▽歯科医師による口腔診査に関すること

- ・P7 歯科医師より指摘事項(軽度う蝕 Ci,重度う蝕 Ch)が曖昧であり,わかりづらい,また表記もしづらい。軽度う蝕=C1,C2,重度う蝕=C3,C4の方がいいのではないのか。  
(参考資料として,かごしま口腔保険協会の歯周病マニュアルを同封します)
- ・歯科医師より,必携のP6(i)健全歯のらん,白濁・白斑・着色歯についての記述の(注)の部分。当日,初めて診る方について,何による着色等によるものか含め,判断が難しいというご意見がありました。
- ・口腔診査時に傍らにおいて見ながらできる「記入要領」があると良い
- ・オーバースタイルについて,過蓋咬合で切歯の突出がない場合,測定が難しいと歯科医師会から指摘を受けた。前歯部叢生および空隙ありと判断する基準はないのかと歯科医師会より指摘を受けた。

### ▽その他

- ・調査票太枠内 (3) 歯や口の状態 → 4. 噛めないものがある → 「噛みにくい」に変更してはどうか
- ・P2 調査票の提出について,調査の協力の有無に関わらず被調査者すべての調査票を提出することを明記してほしい。
- ・根拠法令を記載する。

表3. 自由記述質問Q22(歯科疾患実態調査に関する意見)の回答一覧 [その1]

Q22. 歯科疾患実態調査に関して御意見等がありましたら御記入ください(自由記述)

▽栄調との関係

- ・ 調査方法が非効率、アンケート調査のみにして国が実施するなど調査方法の検討が必要。国民健康栄養調査と歯科の通知等が時間差でバラバラにきていたため調整してほしい。
- ・ 通知など時期的にもばらばらにあると効率が良くないため、国民健康栄養調査の中に組み入れて、一体的に実施していただきたい
- ・ 今回は特に事前情報(5年に一度に変更)がなく苦勞した。栄養調査の協力(予算、対象地区や対象者への周知、会場確保等)なしには実施できなかったと思う。
- ・ 栄調と同じ要領で(一体化)実施できれば連携を意識せずとも実施できる。(独自の県民調査は容量を一体化し、身体状況調査に歯科を含めている)
- ・ 被調査名簿の作成については栄養調査担当者より情報をもらったが、栄養調査のために収集した情報ということなので問題があると思っています。次期までに改善したいと思います
- ・ 自治体は栄調と歯調の補助金等の手続きを別々に行わなければならないため、事務量の増大につながっている。栄調の5年に1度の追加項目として調査を1本化できないか。
- ・ 年々国民健康栄養調査への協力者が減少しており、5年毎の調査を合わせて行っても実態調査といえるデータが集まるとは考えにくいと思います。毎年国調に合せて質問紙のみでも継続実施していったらどうでしょうか。
- ・ 国民健康栄養調査(栄養摂取状況調査、身体状況調査、生活習慣調査)と併せて実施しているため、調査対象者の負担が非常に大きい。
- ・ 栄調担当の協力がないと、実施は不可能。
- ・ 栄養調査には非常勤雇用の経費がついていたが歯科の調査には全くつかなかった。
- ・ 問診票 高齢者には字が小さすぎる。字を大きく、栄調のように記入欄がわかりやすい問診票の方がよい。説明は聞いてもらえない。「見ればわかる」「書けばいい」レベルの説明で済むものでないと、受け取ってすらもらえない(協力的な人ほどのような様式でも積極的に解説して記入してもらえる)。栄調と一緒に配布したため、同じ文字サイズ、体裁の様式にしてほしい。説明しやすく、書く方もわかりやすい。
- ・ 今回、国民健康栄養調査の大規模実施と併せて実施されたことで対象者人数は多かったが、被調査者および保健所担当者の負担が大きくなり、これ以上、回収率を上げることは難しかったと考える。回収率を重視するのであれば通常規模の国調と併せての実施が望ましいと考えます。
- ・ 調査が歯科疾患実態調査単独ではなく、毎年実施している国民健康・栄養調査主体で実施されているため、住民との調整や実施方法などをよく把握している栄養担当者が主体で実施し、歯科担当者は指示待ちの状況が多かった。協力周知チラシ(歯科)を入れることもできなかった。
- ・ 栄養調査の拡大調査と同じ時期だと、対象者が多く、負担が大きいので、拡大調査の年は避けて欲しい。
- ・ 歯科疾患実態調査の調査票等が保健所へ届くのが遅かったため、事前準備が栄養調査とふた手間となった。大阪府保健所には歯科担当者がいないため栄養士が実施したが大規模調査でH22度国勢調査の名簿が古すぎて対象者の確認に手間どった。

表3. 自由記述質問Q22(歯科疾患実態調査に関する意見)の回答一覧 [その2]

- ・ 栄調と同じ要領で(一体化)実施できれば連携を意識せずとも実施できる。(独自の県民調査は容量を一体化し、身体状況調査に歯科を含めている)
- ・ 必携やリーフレットのひな形の送付が栄調と比較して遅かった。(栄調が拡大調査年で実施が早かったこともあり)
- ・ 初めて対応する者でも流れが分かりやすいように連絡していただきかったです。栄調と連携する必要があるのに、連絡がバラバラだったり、流れが異なっていたりしていたので、合わせたうえで早めの連絡がほしかったです。

#### ▽準備に関すること(栄調以外)

- ・ 歯科医師会の理解が得られず苦勞した。報償費が少い、歯科衛生士との報償費の金額が釣り合わない、時間が長く対象者が多いので数人の歯科医師が必要である等の要望があった。
- ・ 保健所の業務として口腔診査は実施していないため、必要な物品(歯科用ライト等)がなく、町から借りて実施した。市町村を抽出し、市町村主体で保健センターにて実施する方が良い。口腔診査は0%となっていたが、実際は33人実施(26.6%)であった。
- ・ 必携に準じたWHOプローブのディスポを探すのに苦勞した。県型保健所のため対人サービスがなく、次に使用する機会がないので安価で入手しやすいプローブを希望します。
- ・ 前回(H23)はディスポーザブルの健診器具が歯科保健課から送付された。各自治体で準備するより国で納品も含めた一括入札を行ったほうが、安価でできるのではないか。
- ・ 滅菌済のWHOプローブ、ミラーを支給してほしい。県型保健所では器具の確保が必要になるため
- ・ もう少し早く案内していただけると、準備がスムーズに進むと思う。
- ・ 名簿作成他非常に人手がかかったため、今後は検討してほしい。
- ・ 保健所職員が診査補助員となっていなかったため、準備や調査票のチェックが十分にできなかった。

#### ▽調査の方法論に関すること(改善案)

- ・ KDB・NDBや健康増進事業である歯周疾患検診データの活用を検討してはどうか。
- ・ 質問紙のみ回答協力について。若い世代の調査協力者増加のため、郵送・インターネット回答など各世代に合わせた調査手法をとり入れてはどうか。郵送依頼であれば、集合住宅居住者への戸別依頼も可能ではないか。口腔内診査の協力について。幼年期～壮年期は受診券方式を導入したり、学齢期は学校単位で抽出するなど被調査者が受診(協力)しやすい手法をとり入れるなど抜本的な検討も必要ではないか。
- ・ 歯科検診 本市の指定地区は低所得者層が多い地域だったが、会えない人が多く、一部関心の高い人や、一定の所得水準の人が検診を受けた印象。かかりつけ歯科医の受診データの利用や他の制度とのタイアップなど、他の方法も組み合わせた実態調査を行ってはどうか。足が悪いため会場まで出向けないと断られた高齢者が複数名いた。しかし歯科医師会から派遣を受けての実施であったため、対象者の時間に合わせた歯科医師の訪問は困難だった。何をどこまで把握するかにもよるが、参考値として歯科衛生士による口腔内観察の結果を項目に加えてもいいのではないか。

表3. 自由記述質問Q22(歯科疾患実態調査に関する意見)の回答一覧 [その3]

- ・無作為のためだんだん協力は減っていきます。当県は広いので地域により歯科保健状況は異なるため、人口の多い地域ばかりでなく県に任せて種々の地域での実施ではどうか？
- ・口腔診査を含めた調査は貴重であり、歯科医院につながっていない者も含めた実態の把握という点では必要性を感じている。しかし、現行の調査方法では、対象者の協力が得にくいいため、口腔診査については、歯科医院等も含めた診査機会の拡大などにより、かかりつけ歯科医を持つこと、定期的な受診の必要性についての啓発、周知も合わせて行えるのではないかと思う。
- ・各回毎に参加者数が減少しており、歯科検診の協力率も悪くなっている。質問紙のみでの実施で検診データは別のデータを活用する必要性もある。(今後、歯周病検診を一般定期健康診断の項目とし、データを収集できる様になれば良い。)

#### ▽今回の調査内容に関すること

- ・お送りやいただいた「調査結果の概要」の「4.歯列・咬合の状況(12～20歳)」の中には、疑義のある数値が記載されていたので、十分吟味の上、公表していただければと思った。
- ・当地区では歯科医師、歯科衛生士に口腔内診査を実施してもらいましたが、必携P.3診査補助員として保健所職員も記録することを想定すると、口腔内診査の診査基準および記録方法をもう少し易しい言葉で書いていただけたほうがよいと感じました。

#### ▽調査方法に関する周知

- ・「質問紙回答のみ」でも対象者として扱われることは、事例が発生後、Q&Aで確認して認識した。必携に記載していただければ、「質問紙回答のみ」の回収数を増やすことは可能と考える。
- ・(3)の設問を工夫して欲しい。まず最初に「1ない」と回答があるため、殆どの方が「1ない」と回答していたが、問診をすると、なんらかの自覚症状がある方が大半だった。  
(4)歯をみがく頻度の設問(歯が全くない人は除く)と表記してあるが、総義歯の方も勿論、口から飲食物を全く摂取していない方にも、口腔ケア(歯みがき)を推進しているため、(歯が全くない人は除く)は、とても違和感を感じた

#### ▽対象者への事後対応に関するもの

- ・調査協力者への謝礼費を国経費として認めてほしい。
- ・口腔内診査を受けた者に対して、本人に結果が返却できると良いと感じた。(栄調のように一般の人でも分かりやすくまとめたものを返せると、被調査者にもメリットがあると思う。当所には歯科専門職がないため、報告のフォーマットなどがあると助かる)
- ・診査当日、対象者に対し、診査結果の返却、歯科医師からのコメント等があればよい。
- ・調査対象世帯に対する謝礼も経費にすべきである。結局何らかのお礼をしなければ参加してもらえない。
- ・委託費 調査協力への謝礼は必須。協力をするにあたっては負担感こそあれ、メリットは感じてもらえない(検診まで協力いただけた人にはとても喜ばれましたが)。



表3. 自由記述質問Q22(歯科疾患実態調査に関する意見)の回答一覧 [その4]

- ・対象になった住民には「歯科健診」の機会のひとつとして「歯の健康チェックを受けましょう」と呼びかけてみた。歯科健診の結果用紙をお渡ししましたが、何か啓発になるクリアファイルなど併せて配布できれば良いと思います
- ・協力者には、何かしらの報酬等があると協力率も得られるのではないかと思います。
- ・結果返しがあれば協力者に喜ばれると感じた。(栄調はしている)

#### ▽協力率について

- ・調査協力率は、対象地区の特性の影響が大きく、調査技術の熟達による向上が望みにくいと感している。
- ・調査地区の協力率は、過去に比べてだんだん低下してきている。自治会の地区関係者に協力をいただいても参加率の向上は難しくなりつつある。
- ・本市における「歯科疾患実態調査」は、国民健康栄養調査と同時に実施している。被調査者に対する事前調査依頼（家庭訪問）についても国民健康栄養調査の調査員の方に厚生労働省作成の「歯科疾患実態調査のご協力をお願いします」というチラシと「歯ブラシ」（本市独自の協力依頼粗品）を配布していただいている状況。国民健康栄養調査と同じ対象者に対して歯科単独で調査を実施するのは非効率的であり、また事前に家庭訪問されることに対して、不信感や嫌悪感を示されている住民が増加しているという現実があることから調査日当日の協力者「被調査者」が少ないと考えられる。改善策については、広報啓発の徹底が考えられる。そもそもこのような調査があることを国民は知らないため、国民健康栄養調査も含め、広報啓発の必要がある。国勢調査の前には、テレビなどで調査員が訪問して調査票を配布、回収する旨報道されることがあるが、そのような事をする必要があるのではないか
- ・協力率が上げるために、住民の方々に出席しやすい時間帯や曜日を確認し日曜日の午前中に設定しました。出席していただいた方々は、栄調プラス歯調も100%協力していただきました。もう少し口腔診査の数がほしいところですが、今のやり方では難しいようです。協力率の高い市町村のやり方など教えていただければありがたいです。
- ・今回当区で調査実施者は数名でした。区の人口が〇十万人のなかで、この数名の結果を目区の調査データとして活用することは難しいと思いました。
- ・歯調について高い協力率を得るためには、受けとなるような案内リーフレットの作成やより丁寧な協力依頼の段取りが必要だと考えます。
- ・口腔内診査実施者数は区の人口〇十万人のうち、ほんの僅かな人数で、この少ない対象のデータをもって全国の歯科の動向ははかれないと感じる。もっと多くの人数を実施しなければ、方向性は決められないと感じる

#### ▽事後評価(今回のようなアンケート調査)について

- ・実施についてのアンケート調査は、調査直後のほうがよい
- ・調査準備時に色々困ったことがあったと思いますが、本アンケートは約1年後に実施されているため思い出すことが難しいです。遅くとも調査実施1、2か月後までにアンケートを実施した方が良いと思います。

## D. 考察

本調査では92%という高い回収率が得られた。この要因として、本調査の企画段階から行歯会（全国行政歯科技術職連絡会）の理事有志（本報告の研究協力者）から協力が得られたことが大きいと考えられた。そこから出た意見として厚労省の調査主管課である歯科保健課から調査開始前に協力依頼メールを出してもらいなど、調査をすすめていくうえで有用な意見を得ることができた。

今回の調査において重視したのは歯科疾患実態調査の母体となる調査である国民健康・栄養調査との現場レベルにおける連携であったが、予想していた以上に現場では連携がとられている実態を確認することができた。逆に、現場の声としては制度面・運用面で国民健康・栄養調査と歯科疾患実態調査の連携・効率化を求める声が強く、課題としてはこちらの方が大きいと言える。

本調査の調査結果のうち、とくに自由記述回答結果全体から、歯科疾患実態調査は国民健康・栄養調査に比べてPDCAサイクルが機能していないことが窺えた。その理由として国民健康・栄養調査は毎年実施されているのに対して歯科疾患実態調査は従来6年に一回の調査であり、その都度、国も地方も担当者が異なるといった状況が珍しくなく、内容的なフィードバックが行われにくい環境に置かれている点が大いと思われた。調査票にある「交付者数」という用語が分かりづらいという声は多数あったが、これなどはPDCAが機能していない好例といえるかもしれない。

歯科疾患実態調査は従来6年に一回の実施が5年に一回に変わったが、このくらいの頻度だと厚労省の主管課である歯科保健課の担当が一貫しない可能性もあることから、表3の最後のほうに示された意見にあるように、歯科疾患実態調査が終わった直後に調査実施状況に関するアンケート調査を必ず行うようにして記録として残すようにするような対応が必要であり、本調査で得られた知見は、そのプランニングを行ううえで重要な基礎資料になり得ると考えられた。

## E. 結論

「H28 歯調」の対象地区に対して、同調査の実施内容や改善点などについて、「H28 歯調」実施から1年余を経過した2018年1～2月に郵送による質問紙調査を行い、92%の地区から回答が得られた。「H28 栄調」との連携については、現場では一定レベルの連携がとられている状況が窺える結果が得られた。今後の協力率向上の見通しに関する質問には、口腔診査の協力率が向上するという見通しの回答は少なかったが、質問紙の協力率が向上するという見通しの回答が多かった。今後の改善等に関する自由記述の回答から、歯科疾患実態調査ではPDCAが機能していない状況が窺えた。

## F. 文献

- 1) 日本口腔衛生学会編：平成 23 年歯科疾患実態調査報告。口腔保健協会，東京，2013.
- 2) 歯科疾患実態調査報告解析検討委員会編．解説 平成 17 年歯科疾患実態調査．口腔保

- 健協会. 東京. 2007.
- 3) 厚生労働省医政局歯科保健課編. 平成 11 年歯科疾患実態調査報告 ー厚生省健康政策局調査ー. 口腔保健協会. 東京. 2001.
  - 4) 厚生省健康政策局歯科衛生課編. 平成 5 年 歯科疾患実態調査報告. 口腔保健協会. 東京. 1995.
  - 5) 厚生省健康政策局歯科衛生課編. 昭和 62 年 歯科疾患実態調査報告. 口腔保健協会. 東京. 1989.
  - 6) 厚生省医務局歯科衛生課編. 昭和 56 年 歯科疾患実態調査報告. 口腔保健協会. 東京. 1983.
  - 7) 厚生省医務局歯科衛生課編. 昭和 50 年 歯科疾患実態調査報告. 口腔保健協会. 東京. 1977.
  - 8) 厚生省医務局. 昭和 32・38・44 年 歯科疾患実態調査報告. 口腔保健協会. 東京. 1982.
  - 9) 厚生労働省. 平成 28 年歯科疾患実態調査.  
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/62-28.html>
  - 10) 安藤雄一、柳澤智仁、岩崎正則、北村雅保、竹内倫子、玉置 洋. 平成 28 年歯科疾患実態調査における協力率の検討. 厚生労働科学研究費補助金・地域医療基盤開発推進研究事業「系統的レビューに基づく「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」に寄与する口腔機能評価法と歯科保健指導法の検証」(H29-医療-一般-001、研究代表者：三浦宏子) 平成 29 年度総括・分担報告書；2018. (印刷中).
  - 11) 厚生労働省：平成 28 年歯科疾患実態調査 必携.

## G. 研究発表

1. 原著論文  
なし
2. 総説・著書  
なし
3. 学会発表（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）  
なし

## H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし



Q 7. 地区内の関係者（自治会長、マンション管理者等）に協力依頼等に出向されましたか（○印は1つ）

1. はい（「H28 栄調」担当者と一緒に）
2. はい（「H28 歯調」独自に）
3. いいえ

Q 8. 地区の「H28 栄調」担当者との関係性について伺います。（a）～（d）の4つの観点について、1～5のうち当てはまるものに○をつけてください（○印は各1つ）

	1	2	3	4	5
	←-----→				
	はい				いいえ
(a) 随時相談できる関係であった	1	2	3	4	5
(b) 理解があった	1	2	3	4	5
(c) 事前に連携できた	1	2	3	4	5
(d) 実際に協力が得られた	1	2	3	4	5

Q 9. 各地区における被調査者数（「必携」における第1号様式「被調査者名簿」に記されている人数）はどのように把握しましたか（○印は1つ）

1. 「H28 栄調」における同様の名簿に準拠して作成した
2. 平成22年国勢調査の資料を用いた
3. その他 [ ]

Q 10. 調査を実施した日時と会場について御記入ください。

日 時	平成28年	月	日	曜日
	時 分		～	時 分
郵便番号				
会場名称				

Q 11. 「H28 歯調」質問紙（「必携」の第2号様式）を事前に各戸配布されましたか（○印は1つ）

1. はい（「H28 栄調」の調査票と一緒に）
2. はい（「H28 歯調」の調査票単独で）
3. いいえ

Q 1 2. 「H28 歯調」の実施当時、「質問紙回答のみ」でも対象者として扱われることは御存じでしたか（○印は1つ）

1. 知っていた → 次問（Q 1 3）へ
2. 知らなかった → 次々問（Q 1 4）へ
3. わからない → 次々問（Q 1 4）へ

Q 1 3. どのように知りましたか。下記のうち、当てはまるもの全てに○をつけてください（当てはまるもの全てに○印）

1. 自治体の本庁【注】からの指示が最初からあった
2. 必携からそのように解釈した
3. 自治体の本庁【注】に問い合わせで知った（確認できた）
4. 国の説明会に参加して知った
5. 国に問い合わせで知った（確認できた）
6. その他 [ ]

【注】都道府県や政令指定都市の本庁

Q 1 4. 調査会場以外（自宅など）に出向いて口腔診査を行いましたか（○印は1つ）

1. はい
2. いいえ

Q 1 5. 調査会場における「H28 歯調」と「H28 栄調」の関係についてお尋ねします。受診者の流れは、「H28 栄調」の診査が終わらないと「H28 歯調」の診査に行くことができない、というものでしたか（○印は1つ）

1. はい → 次問（Q 1 6）へ
2. いいえ → 次々問（Q 1 7）へ

Q 1 6. 「H28 栄調」の会場では、受診者に対して調査が終わったら、「H28 歯調」の会場に行くように伝えていましたか（○印は1つ）

1. はい
2. いいえ
3. わからない

Q 1 7. 「H28 歯調」で得られたデータは自地域（都道府県を含む）の調査データとして活用されましたか（○印は1つ）

1. 活用した、または活用する予定
2. 検討中
3. ない

Q 1 8. 「H28 歯調」の実施に関して、追加の記述があれば御記入ください。御意見等は後の質問にて別途伺いますので、ここでは事実的な事柄にとどめてください（自由記述）

Q19. 「必携」について、どのようにお考えですか？。

1. 今のままで良い → 次々問 (Q21) へ
2. 改善点がある → 次問 (Q20) へ

Q20. 改善点について具体的に御記入ください。或いは、同封された「必携」の該当箇所  
所に赤字で御記入いただき、付箋をつけて御返送ください。

Q21. 貴地区の協力率【注】は、同封した「資料1：当該地区と国全体の回収率（協力率）」に記したとおりでした。仮に次回の歯調で担当するようになった場合、この数値よりも高い協力率が得られる見通しについてお尋ねします。以下の回答肢から該当するもの1つを選んでください。

【注】協力率は、各調査地区から厚労省歯科保健課に提出していただいた「H28 歯調」の協力状況に関する資料（厚労省歯科保健課より本研究班に提供）を用いております。

① 口腔診査受診者に限定した場合（○印は1つ）

1. ある
2. 少しある
3. あまりない
4. ない

② 質問紙のみ回答者を含めた場合（○印は1つ）

1. ある
2. 少しある
3. あまりない
4. ない

Q22. 歯科疾患実態調査に関して御意見等がありましたら御記入ください（自由記述）

Q23. 今回の調査結果をメールにてお伝えしたいと考えておりますので、下記にEメールのアドレスを御記入ください

～質問は以上です。御協力ありがとうございました。～

## 平成28年 歯科疾患実態調査 貴地区における協力状況

本資料は、平成28年歯科疾患実態調査の実施時に厚生労働省医局歯科保健課が全国の調査対象地区から情報収集したデータを本厚生労働科学研究班に御提供いただき、作成したものです。

質問票のQ21で本資料を用いますので、ご確認ください。

〈付記〉本資料における個々の対象地域ごとの結果について公表はいたしません。

都道府県 茨城県  
市区町村 奥茨城村

参加者数(合計)	23 人
口腔内診査実施者数	23 人
アンケートのみ参加者	0 人
調査対象者数	55 人

協力率(質問紙のみ回答を含む)	41.8%	[全国値 41%]
協力率(口腔内診査)	41.8%	[全国値 26%]